

# 長岡京跡 発掘調査現地説明会資料

—長岡京右京二条三坊一町・八町(右京第903次調査)— 2007年6月9日(土)

所在地 京都市西京区大原野上里南ノ町地内  
期間 2007年4月～継続中  
調査面積 約1,600㎡(現在)  
調査機関 財団法人京都市埋蔵文化財研究所(<http://kyoto-arc.or.jp/>)

## はじめに

今回の調査は道路建設に伴うもので、2002年度より調査を継続しています。予定地内は長岡京右京の二条三坊・四坊にあたり、また、路線の東半は縄文時代から室町時代の遺跡である上里遺跡のほぼ中央を東西に貫いています。

昨年度の西隣の調査では、長岡京期の建物や上里遺跡に関する弥生時代前期の甕棺、さらに縄文時代晩期の土器棺・竪穴住居などが見つかっており、今回の調査区でも同様の遺構の検出が期待されています。

今回は、本調査の第1回目の成果として、長岡京期の遺構の状況を説明します。

## 発見した遺構

調査地は、長岡京右京二条三坊一町と八町の北寄りに位置します。調査区の北端には東西方向の一条大路、中央には南北方向の西三坊坊間東小路が推定されており、ちょうど両路の交差点にあたります。

**一条大路** 東西方向の道路の南側溝と考えられる東西方向の溝が見つかりました。

SD13 南側溝。幅1.4～1.8m、深さ0.2m。

**西三坊坊間東小路** 南北方向の小路と東西両側溝が見つかりました。

SD162 東側溝。幅2.5～3.0m、深さ0.3m。土馬の破片が出土しています。

SD164 西側溝。幅約4m、深さ0.2m。

**二条三坊一町** 宅地の西寄りでは整地と考えられる土層を確認していますが、建物は確認できませんでした。

**二条三坊八町** 倉庫と考えられる建物1と柱間の距離が一定でない建物2が南北に並んで見つかりました。また宅地の内溝と考えられる溝があります。

建物1 掘立柱建物(総柱) 東西三間(4.8m)×南北三間(5.1m)。

建物2 掘立柱建物 東西二間(4.8m)×南北二間(6.3m)。

SD172 内溝。幅0.5m、深さ0.1～0.2m。

## まとめ(今回の調査成果)

- ・ほぼ推定位置通りに西三坊坊間東小路を見つけることができました。
- ・八町には建物が整然と配置され、一町域を占めていることがわかりました。



長岡京期全景写真(西より)



建物1全景写真(西より)



調査位置図

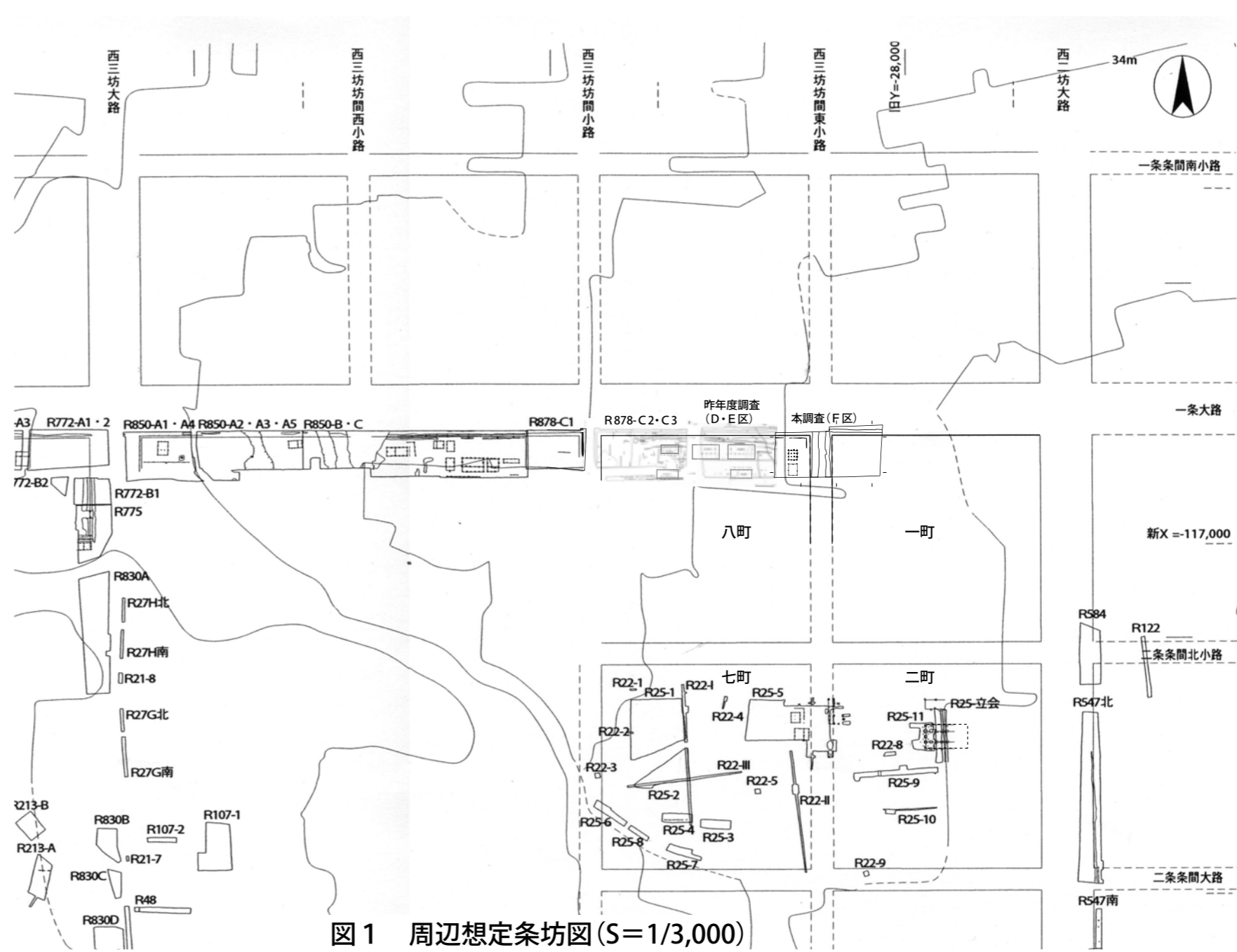


図1 周辺想定条坊図 (S=1/3,000)

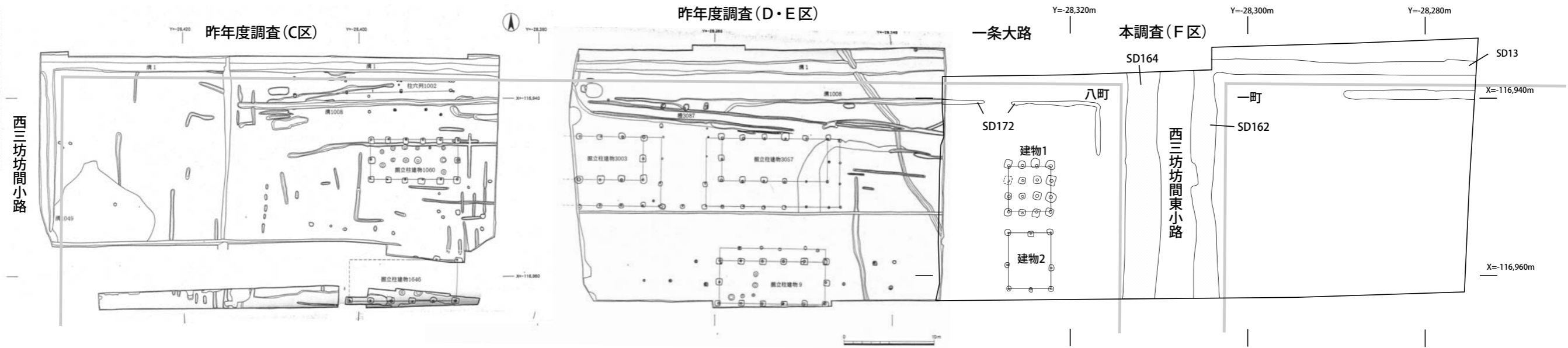


図2 遺構略図 (S=1/500)